

【研究課題名】

分子空孔を活用した感応性化学種のモデル化に基づく生体反応過程の化学的解明

【各研究項目の連携状況】

領域内の他の研究グループとの連携状況（予定を含む）について、①簡略化した共同研究内容②連携研究代表者姓（研究項目班）③共著論文の有無（件数）を研究内容毎に記載

①酵素反応の感応性中間体に関する研究，②井上豪(A04)，③無

【原著論文】

1. T. Sano, K. Shimada, Y. Aoki, T. Kawashima, S. Sase, *K. Goto, “Modeling of the Bioactivation of an Organic Nitrate by a Thiol to Form a Thionitrate Intermediate”, *Molecules* **22**, 19 (2017).

【総説・解説】

1. *K. Goto, “The Concept of Preorganization”, *Comprehensive Supramolecular Chemistry II*, in press (DOI: 10.1016/B978-0-12-409547-2.12476-X)

【受賞について】

（研究協力者（＝学生，研究員など）の受賞）

2016 年 5 月 21 日：研究協力者 野田聡（修士課程 2 年），5th Workshop of SeS Redox and Catalysis Award "Nicola Petragnani" (Award for the Best Student Communication)

2016 年 6 月 5 日：研究協力者 野田聡（修士課程 2 年），第 14 回ホスト・ゲスト化学シンポジウム 優秀ポスター賞

2016 年 7 月 28 日：研究協力者 野田聡（修士課程 2 年），27th International Symposium on Organic Chemistry of Sulfur ChemistryOpen Poster Presentation Award

【共同研究推進事業について】

2016 年 10 月 27-28 日：総括班経費の共同研究推進事業にて，A04 班の井上豪教授と酵素反応の感応性中間体に関する研究に関する共同研究について打合せを実施した。

【新学術に関連したシンポジウムや研究会などの開催状況】

2017 年 12 月 7-9 日（開催予定）：「第 44 回有機典型元素化学討論会」（東京工業大学，東京都）

【アウトリーチの実施状況】

2016 年 8 月 11 日：東京工業大学オープンキャンパスに出展